

進むか関係改善

【R・東京】二十八日のモスクワ放送によると、ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長が同日、ウラジオストクで行った演説の要旨は次の通り。

「アフガニスタン問題」

「アフガニスタン政府の要請で同国に駐留しているソ連軍を本国に帰還させる用意があることが、ソ連第二十七回大会で言明された。周知の通り、我々は、言葉は行動で裏付けられるべきとの原則に強く従っている。

「形成されつつある情勢を徹底的に検討するとともに、アフガニスタン政府との協議を行った。ソ連指導部は、今年末までにアフガニスタンから六つの連隊を本国に帰還させるという決定を採択し、本日、私がそれを正式に発表する次第である。帰還する連隊は、重機、自動車、狙撃連隊二、対空砲兵連隊三、で、兵器、器材を伴う。これらの部隊は、連隊内の常駐配備地域に戻るが、これは、関心を保持するすべての人々が容易に確認できる形で行われる。

「ソ連はまた、アフガニスタンに対して武力干渉を組織し、実行している者が、われわれのこの一方的な行動を正しく理解し、しかるべく評価するであろうとの考えから出発している。この行動にはアフガニスタンへの内政干渉の疑念をもたない。われわれは、この疑念を排除し、一、国連事務総長の仲介で行われるアフガニスタン・パキスタン交渉は、一定の進展が達成された。政治解決が最終的に達成されたあかつきには、アフガニスタンからのソ連軍の撤退をスピードアップすることができ、段階的撤退の形で行われる。

「ソ連はまた、アフガニスタンに対して武力干渉を組織し、実行している者が、われわれのこの一方的な行動を正しく理解し、しかるべく評価するであろうとの考えから出発している。この行動にはアフガニスタンへの内政干渉の疑念をもたない。われわれは、この疑念を排除し、一、国連事務総長の仲介で行われるアフガニスタン・パキスタン交渉は、一定の進展が達成された。政治解決が最終的に達成されたあかつきには、アフガニスタンからのソ連軍の撤退をスピードアップすることができ、段階的撤退の形で行われる。

手前はアフガニスタン指導部との間で合意済みである。

「アフガニスタンに対する宣戦布告なき戦争を鼓舞し、その資源を供給し、また自国領土をその基地として使わせているすべての者は、アフガニスタンに対する干渉が継続される限り、ソ連は自らの隣人(アフガニスタン)に味方するだろうということを承認していただければならない。それはアフガニスタン国民との国際主義的連帯およびソ連の安全保障上の利益に基づく行動である。

「われわれは、一時は国外に出たが、いまは新生アフガニスタンの建設に誠実に参加する用意のある政治勢力も加わる政府の創設をも含めて、民族和解、四月民族革命の社会主義的基礎の拡大を目指すアフガニスタン現指導部の路線を支持している。

「中国関係」

「中国に近いウラジオストクで演説するにあたり、ソ連関係の要諦について説明したい。ソ連はわれわれが世界最長の陸上国境を持つ国であることから始める。それゆえ、われわれの子孫は現在および近い未来まで、共に暮らす運命にあるという理由により、大きな重要性を持つ。しかし、互に互に問題を抱えているだけではない。歴史はソ連国民に非常に責任ある使命を課した。二つの最大の社会主義国に国際情勢の多くの事柄がかかっている。

「近年、ソ連関係は著しく改善された。ソ連は満洲の要衝を作り出した。補足措置の問題をいづれも、あらゆるレベルで中国と真剣に検討する用意がある」と断言した。

「われわれは近い将来、われわれを分けてはならない国境、いや、われわれを結びつけている、やいまいこの国境が、平和と友好の国境となることを希望している。

「ソ連国民は中国共産党の打ち出した中国近代化の目標、偉大な国民にふさわしい社会主義社会を将来建設する目標に理

ゴルバチョフ書記長演説



解と敬意を寄せている。

「われわれは、両国にとって明らかに有利な面での計画の実現において互に互に支え合った協力すべきではないだろうか。関係がよくなればなるほど、われわれは互に互に支え合った協力すべきではないだろうか。

「ソ連政府は新疆ウイグル自治区とカザフ共和国を結ぶ鉄道の建設協力問題に前向きな回答を与える用意がある。

「われわれは中国に宇宙での協力を提案しており、これには中国人宇宙飛行士の養成も含むことが含まれている。文化、教育の分野で互恵的交流の可能性は大きい。われわれはそれを心から望んでいる。

「米国の参加なしに太平洋地域の安全、協力問題を解決することはできない。残念ながら、ワシントンはまだそのための用意と敬意を寄せている。

は平和、善隣、平等、互恵協力を達成であり、このためには極東にも太平洋にも大きな可能性がある。

「一、ジュネーブでのソ連首脳会議以降、ソ連は軍備削減と監視のすべての問題について幾多の大規模な提案を行ってきた。対応する(米国の)動きをわれわれは歓迎することができなかった。事態を開くため、われわれはさらに大きく歩み寄った。レーガン大統領の六月の演説では新しい大きな要約案が打ち出された。

「一、このウラジオストクで、私はレーガン大統領の返書を受け取った。われわれはその検討に着手した。責任感と注意をもち、それによって接するつもりである。

「一、われわれにとって何よりも重要なのは、書面に盛り込まれた提案が同等の安全の原則に合

ある。

「一、ソ連関係の客観的状況は、健全で現実的な基礎に立ち、過去の問題にわずらわれない平和な雰囲気での深い協力が必要としている。

「一、今年初めに韓米が開かれた外相の相互訪問が実現した。最高レベルでの訪問が日程に上っている。

「一、経済協力が双方が関心を示しており、第一にそれは、日本企業と実務経験をすでに持っているソ連沿海地域にあっては、ソ連と日本の近接する地域に共同の企業を設立する問題も討議することができよう。

「一、海洋資源の調査と総合開発における長期的協力を軌道に乗せたり、宇宙平和研究・利用計画をつき合ったりし、互に互に協力する用意がある。もちろん、この協力が、だれかによって押し付けられたブロックの経済社会主義的図式に従ってではなく、どの差別もない自由な討議の結果として構想されているという前提のもとである。

の利益にならないはずはないのは、明らかである。

「アジア・太平洋安保」

「一、アジア・太平洋地域の安全保障に関するわれわれの構想は、過去と現在の経験と考慮している。現在、共通の経済問題を実際の解決しようとしている。東南アジア諸国連合(ASEAN)の活動には肯定的なものが少なからずある。環太平洋構想がはげつけられた後は、太平洋経済協力の構想が議論されている。われわれはこうした協力の可能な基礎の検討に参加する用意がある。もちろん、この協力が、だれかによって押し付けられたブロックの経済社会主義的図式に従ってではなく、どの差別もない自由な討議の結果として構想されているという前提のもとである。

は、対峙水際線分野での競争の制限、特に、太平洋の一定水域で対峙水際線活動を抑制することについての合意達成を助けるであろう。これは重要な信頼醸成措置になりうる。全体として次のことを言いたい。もし米国の例えはフィリピンにおいて、軍事力のプレゼンスを放棄するならば、われわれもそれに追随する行動をとるであろう。われわれはまた、インド洋の平和と安定に関する交渉の再開を断固主張している。

「ソ連は、アジアにおいて核兵器と通常兵器を理にかなった数量まで削減することに大きな意義を与えている。われわれは、この問題が徐々に、段階的に、ある一つの地域例えは極東を皮切りにしていくことが必要であることを承認している。

「一、この文脈において、ソ連は中国と、地上軍の約りの合いのれた削減を目指す具体的措置を討議する用意がある。

「一、われわれは現在、モンゴル人民革命指導部とモンゴル駐留ソ連軍指導部の撤収を検討中である。

「ソ連は、アジア・太平洋地域における信頼醸成措置と武力不行使の討議を、実際の平面的に移行させる時がすでに前にきていると考えている。これは、北朝鮮が提唱している真摯な対話を再開する理由ではない。

「一、われわれはアジア・太平洋における核兵器拡散の道に障壁を築くことに賛成である。周知のように、ソ連はソ連アジア地域で中距離ミサイルを増強しないことを約束した。ソ連は、太平洋南部の非核地帯宣言を支持しており、すべての核保有国がその非核状態を保障するよう呼びかけている。

「一、朝鮮半島の非核地帯実現に関する北朝鮮の提案の実現は、大きな貢献となりうるであ

東西緩和にも好材料

中嶋 嶺雄・東京外語大教授



アフガニスタンのみならず、モンゴル駐留のソ連軍まで撤退せよという、二十八日のゴルバチョフ・ソ連書記長の包括的な軍縮提案の背景は何か。その意味と今後の展望を、最近のソ連事情などに詳しい三人の専門家に聞いた。

「ソ連は、アフガニスタン情勢はドクトリナ化し、第一のベトナム化していった。ソ連としても兵を引き揚げるきっかけを求めていた。内政的に非常に苦しいときに、この軍事コストは非常に負担だったから。

「残るベトナムは、レ・スアン氏の死去のあと非常に流動的である。中国との関係も好転しつつある。中国は、二条件を満たせば中ソ間には名実ともに隣国はなくなった、ということだ。

「レーガン大統領は戦略防衛構想(SDI)に何とか中国を誘い入れようとしていたが、中国は一貫して拒否してきた。この問題が、一昨年の中間の経済問題の緊縮化において重要なポイントになっている。中国は原子力や宇宙開発に積極的な姿勢を示しているが、いざ協力を受ける段になつてはやはり社会主義国同士の協力関係が必要、と

い。アフガニスタン情勢はドクトリナ化し、第一のベトナム化していった。ソ連としても兵を引き揚げるきっかけを求めていた。内政的に非常に苦しいときに、この軍事コストは非常に負担だったから。

「残るベトナムは、レ・スアン氏の死去のあと非常に流動的である。中国との関係も好転しつつある。中国は、二条件を満たせば中ソ間には名実ともに隣国はなくなった、ということだ。

「レーガン大統領は戦略防衛構想(SDI)に何とか中国を誘い入れようとしていたが、中国は一貫して拒否してきた。この問題が、一昨年の中間の経済問題の緊縮化において重要なポイントになっている。中国は原子力や宇宙開発に積極的な姿勢を示しているが、いざ協力を受ける段になつてはやはり社会主義国同士の協力関係が必要、と

さすがはゴルバチョフさん、やりますな。という感じが、アフガニスタンからの部分撤兵は速からずあるだろうと踏んで、中国は、いざ協力を受ける段になつてはやはり社会主義国同士の協力関係が必要、と

私はソ連経済の抜本的立て直しを図るための大きな布石だろうと見て、今年四月にも日ソ経済合同会議のため訪ソした。ソ連経済はいま戦後最悪の状態ではないかと思つた。輸出額の七割を占める石油と天然ガスの価格が最低ラインまで落ち込み、ある高官も「外貨事情は最悪」と認めていた。消費

外交の多元主義出す

袴田 茂樹・青山学院大助教授



対米一辺倒のグロム・コ外交と異なり、外交の多元主義を出そうとしたゴルバチョフ書記長の姿勢が表れている。ただし、国内には数自身は党内保守派の間などで微妙な立場に

「ソ連は、アフガニスタン情勢はドクトリナ化し、第一のベトナム化していった。ソ連としても兵を引き揚げるきっかけを求めていた。内政的に非常に苦しいときに、この軍事コストは非常に負担だったから。

「残るベトナムは、レ・スアン氏の死去のあと非常に流動的である。中国との関係も好転しつつある。中国は、二条件を満たせば中ソ間には名実ともに隣国はなくなった、ということだ。

「レーガン大統領は戦略防衛構想(SDI)に何とか中国を誘い入れようとしていたが、中国は一貫して拒否してきた。この問題が、一昨年の中間の経済問題の緊縮化において重要なポイントになっている。中国は原子力や宇宙開発に積極的な姿勢を示しているが、いざ協力を受ける段になつてはやはり社会主義国同士の協力関係が必要、と

を認め、その体質を根本的に変えないため、という考えから、対外的な軍事負担を減らすだけ小さくしたいということだ。ただし、軍、党、国家保安委員会(RGB)などの保守派の支持を得られないと、政治的運動も不安定になる。だから、国内保守派を納得させるための反条件を西側から取り付けることになり、ただアフガニスタンから軍を引き揚げるわけにはいかないだろう。

「広島での安全保障会議の提案は、七五年のヘルシンキ合意でヨーロッパとソ連との領土問題を片付けたことを、今度はアジアで中国、日本を対象に行おうという姿勢の表れではないか。ヘルシンキと同じ合意をアジア

で締結できれば、ゴルバチョフ外交にとって大成功といえるだろう。

モンゴルからの軍の撤退に関しては、ソ連側の中国に対する評価が大きく変わってきたことが関係している。鄧小平路線で経済改革を行い、短期間で農業生産などに一定の成果を上げたことは、ソ連にとってショックだった。対中国政策では、これまでどのようなイデオロギー的なアプローチで進めた、ということ、より現実的なアプローチを始めた、ということではないか。

とにかく、極東・太平洋地域に力点を置き出したのは、シベリア開発も関係がある。

規模の兵力の出費になる勘定。モンゴルを加えれば、その倍になる。ソ連はその配分の悪さもある。現場のところで労働力不足が起きている。

ゴルバチョフ氏にとっては、アフガニスタン問題、中ソ問題ともに「ブレイク」時代の遺産であり、自らの権力機構を固め切れば、大胆な政策転換を図るのにはむしろ当然だし、そのことによって、さらに権力基盤を固めることができるはずだ。(談)